

2020 年度事業報告
2020 年 4 月 1 日より 2021 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人フェア・プラス

2020 年度の当初の事業計画では、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態を乗り越えることを唯一最大の目標として取り組みを進めてきました。

上期は、着物の一加、民族学博物館、セレクトショップ和望、京都ハンディクラフトセンター、京都伊勢丹など、多くの取引先が休業、休館、廃業となり、フェア・プラスの主要事業が大きな打撃を受けました。また、マリナオ村もフィリピンの感染拡大防止による村の閉鎖（ロックダウン）により、村の人たちの生活が困窮する状況に追い込まれてしまいました。

このような厳しい状況を克服するため、支援者への寄付のお願いとコロナ禍キャンペーンセール、助成金の柔軟な運用などにより、法人存続の危機を乗り切ることができました。

下期には、2021 年度に向けて”With コロナ”の時代に合致したビジネスモデルの模索を始めました。アバカの新商品、新たな市場の開発の取り組み、着物関係の取引先の開拓を開始しました。

お芋のシフォンケーキの取引は販売先の京都伊勢丹が 6 月に再開してからは、前年の売上げより半減したものの、本年 3 月まで安定した取引が行われています。

2020 年度に進めてきた事業の詳細は以下の通り。

1. **基盤整備**
 - a. 支援者への募金活動
フェア・プラス存続の支援のため募金を募るとともに、コロナ禍克服のための特別セールを実施。

2. **啓発活動事業**
 - a. ツキイチカフェの継続
2020 年 9 月 オンラインにて再開
9 月 20 日 小林 美智子（大阪府茨木市 市議会議員）
「緊急事態、そのとき議会/議員は何ができるか？」～イチ自治体議員の悩み～
12 月 5 日 西田 太一（JAMMIN 合同会社 代表）
チャリティーをもっと楽しく、身近に。京都発チャリティー専門ファッションブランド”
JAMMIN”
1 月 17 日 河西 実（NPO 法人フェア・プラス）
パンデミックに立ち向かうフィリピンの山村の人たち

3. **作業所製品販売事業**
 - a. 第三かめおか作業所製シフォンケーキの販売再開
2020 年 6 月京都伊勢丹での販売を再開、その後 2019 年度の 6 割程度の取引を継続

4. **フェアトレード商品販売事業**

- a. マリナオ村サンラモン生産者団体への支援の再構築
- ・ 台風と新型コロナウイルス感染拡大による被害者の生活再建への支援
上期には 2 回の緊急食糧支援を実施。秋以降は村人たちが最低限の食料を得られるようになってきたことから、収穫祭、クリスマスなどのお祝いに、サンラモン集落の人たちへ豚肉、鶏肉の贈り物を実施。また地元小学校への文具寄付を実施
 - ・ アバカ植林を徐々に再開
 - ・ マクラメ編みトレーニングの少人数クラスにより再開
 - ・ 台風により被害を受けた共同作業所の修復
- b. 日本国内の伝統の手仕事との協力関係構築
- コロナ感染で藤織を伝える上世屋集落の訪問が長期間できなかつたが、「藤織り工房ののの」と連絡を取り合い、2021 年度の展示会開催へ向けて調整を進める。
- c. アバカ帯および着物関係バッグ類の取引
- ・ 問屋山利（山形）との取引はいくつかの課題があり、取引が進まない状況となっている。
 - ・ 「きものサロン」の通販で、アバカの帯、バッグを販売することになる。
 - ・ 京都の老舗織物企業「永井織物永治屋清左衛門」が昨年オープンしたお店「Eijiya-Zou」でかごバッグ、巾着など着物関連バッグを販売してもらえることになり、取引を開始する。
- d. 新たなマーケットの開拓
- フェア・プラスのデザイン系関係者で“with コロナ”時代のアバカ商品をテーマにチームを立ち上げ、商品開発を始める。商品開発にはまだ時間を要するため、オンラインショッピングサイトを今春に立ち上げ、既存の商品の販売から開始する予定。
- e. 一般アバカ商品の販売
- ・ 民族学博物館は 6 月に再開し、アバカ商品も販売する。しかし来場者が少なく、売り上げは昨年より大幅に低下した。
 - ・ 京都、大阪でのイベントへの出店：コロナ禍によりすべてのイベントが中止となり、学生ボランティアの活動の場がなくなってしまった。

以上